

秋保温泉あきう		仙台の温泉地
灰汁	あく	
齷齪	あくせく	
木通	あけび	アケビ科のつる性落葉低木
英虞湾	あごわん	三重県
海豹	あざらし	
海驢	あしか	
紫陽花	あじさい	
校倉	あぜくら	
汗疹	あせも	
厚岸	あつけし	北海道の地名 牡蠣で有名
強ち	あながち	
家鴨	あひる	
香魚	あゆ	
意気地	いくじ	
石和	いさわ	山梨県の地名
一段落	いちだんらく	
一蹴	いっしゅう	
海豚	いるか	
因業	いんごう	何らかの結果を生む原因になる行為。
外郎	ういろう	
虚ろ	うつろ	
雲丹	ウニ	海胆とも書く
蒨蓄	うんちく	
閲覧	えつらん	
択捉	えとろふ	北方4島の一つ
烏帽子	えぼし	
邑楽郡	おうらぐん	群馬県の地名
奥太利	オーストリア	
長万部	おしやまんべ	北海道の地名
女川	おながわ	宮城県の地名
阿る	おもねる	人の気に入るように振る舞う。へつらう。
万年青	おもと	常緑の多年生草本

御嶽山	おんたけさん	長野県の山
回顧	かいこ	過去を顧みる
矍鑠	かくしゃく	年をとっても、丈夫で元気のいい様子。「一とした老人」
赫怒	かくど	激しく怒ること。激怒。
河鹿	かじか	川魚
郭公	かっこう	
角地	かどち	
鼎	かなえ	三本足の鉄のかま。 「一の軽重(けいちょう)を問う」
蚊帳	かや	「一を吊る」
干戈	かんか	武器、または武力。 「一に訴える」
陷穽	かんせい	落とし穴
灌木	かんぼく	低木のこと
奇貨	きか	利用すれば思いがけない利益が得られる品・機会
桔梗	ききょう	
忌憚	きたん	忌みはばかること。 遠慮すること。
生粋	きっすい	
啄木鳥	きつつき	
煙管	きせる	
肌理	きめ	
脚立	きやたつ	
鯨	くじら	
供養	くよう	
草臥れる	くたびれる	
胡桃	くるみ	
聲咳	けいがい	咳払い しわぶき
嗾ける	けしかける	=使嗾 (しそう)
好事家	こうずか	物好きな人、風流を好む人
更埴市	こうしょくし	長野県の地名
巧拙	こうせつ	上手いか下手なこと
権化	ごんげ	「悪の一」
誤謬	ごびゅう	間違えること
独楽	こま	
鯖江	さばえ	福井県の地名 メガネ生産で有名
詐病	さびょう	
五月雨	さみだれ	
桑港	サンフランシスコ	

斯界	しかい	その道を専門とする社会。この分野。「一の長老」
塩竈市	しおがまし	宮城の地名
時雨	しぐれ	
色丹	しこたん	北方4島の一つ
強か	したたか	
悉皆	しっかい	ことごとく。一つ残らず全部
桎梏	しっこく	人の行動を厳しく制限して自由を束縛するもの。「因襲の—から逃れられない」
占冠	しむかつぶ	北海道の地名
十姉妹	じゅうしまつ	鳥の名前
出生率	しゅっしょうりつ	
新発田	しばた	新潟県の地名
紙魚	しみ	昆虫。本を食害するとの謂れから
自然薯	じねんじょ	山芋
弱冠	じゃっかん	男子の数え年二十歳のこと。転じて、年が若いこと。
頌歌	しょうか	神の栄光、君主の徳、英雄の功績などをほめたたえる歌。
猖獗	しょうけつ	悪い物事がはびこり、勢いを増すこと。猛威をふるうこと。
尚早	しょうそう	まだその条件が整っていないこと。まだ早すぎること。「時期—」
傷病	しょうびょう	
逍遥	しょうよう	散歩。そぞろ歩き。坪内逍遥は小説家
数奇屋	すきや	茶席・勝手・水屋などが備わった別棟の茶室。
逝去	せいきょ	
昔日	せきじつ	
殺生	せっしょう	
漸次	ぜんじ	だんだん。「—東へ移動しつつある」
煎餅	せんべい	
造詣	ぞうけい	学問・芸術・技術などについての深い知識やすぐれた技量。「文楽に—が深い」
壮瞥町	そうべつ	北海道の地名
叢書	そうしょ	種々の書物を、一定の形式によって順次刊行してゆくもの。
素麺	そうめん	
草履	ぞうり	
遡及	そきゅう	過去のある時点までさかのぼること。
忖度	そんたく	他人の心をおしはかること。「相手の真意を—する」
大綱	たいこう	物事の基本。おおもと
泰斗	たいと	その分野の第一人者として尊敬される人

長ける	たける	他と比較してすぐれている。
三和土	たたき	コンクリートで仕上げた土間。
佇む	たたずむ	
章魚	たこ	蛸とも書く
惰眠	だみん	
箆筒	たんす	
耽溺	たんでき	一つの事に夢中になって、他を顧みない事
蒲公英	たんぽぽ	
逐条	ちくじょう	箇条を追って。順に従って一条一条。「一解釈」
乳離れ	ちばなれ	
紐帯	ちゅうたい	二つのものをかたく結びつけるもの。
長広舌	ちょうこうぜつ	淀みなく長々としゃべり続けること
重複	ちょうふく	
築地塀	ついじべい	泥土をつき固めて作った塀。
蝶番	ちょうつがい	
詳らか	つまびらか	
九十九髪	つくもがみ	
伝手	つて	手づる たより てがかり
弟子屈	てしかが	北海道の地名
鼎談	ていだん	三人で向かい合って話すこと。
伝馬船	てんません	荷物などを運ぶ、はしけぶね。甲板がなく、木製・小型。
玉蜀黍	とうもろこし	
度し難い	どしがたい	救いがたい
凶画	とが	広く象形的方法により表示されたもの一般を指す。「猥褻物一」
朱鷺	とき	
常滑市	とこなめし	愛知県の地名
怒涛	どとう	
帳	とばり	物をおおいかくすもの。「夜の一」
富田林	とんだばやし	大阪府の地名
中標津	なかしべつ	
亡骸	なきがら	死んで魂がなくなった体
長押	なげし	日本建築で、柱から柱へ渡して壁に取り付ける横木。
勿来の関	なこそせき	福島県の関所
滑川市	なめりかわ	富山県の地名
和む	なごむ	
擦る	なする	

生半可	なまはんか	
納戸	なんど	衣服・調度をしまっておく部屋。
紐育	ニューヨーク	
大蒜	にんにく	
妬む	ねたむ	
涅槃	ねはん	煩惱 の火を消して、智慧 の完成した悟りの境地。
野分	のわき	台風のこと
直方市	のうがた	福岡県の地名
及位	のぞき	山形県の地名
祝詞	のりと	神を祭り神に祈るとき、(神主が神前で) 申し述べる古体の文章。
南風泊	はえどまり	山口県の地名
麦秋	ばくしゅう	熟した麦を取り入れる、初夏のころ。
博打	ばくち	
法被	はっぴ	
破天荒	はてんこう	今までだれもしなかったような事をする事。前代未聞。
齒舞	はばまい	北方 4 島の一つ
羽合温泉	はわい	鳥取県の温泉
彼我	ひが	相手と自分。 あちらとこちら
畢生	ひっせい	生涯、終生
屏風	びょうぶ	
鄙びる	ひなびる	
他人事	ひとごと	
向日葵	ひまわり	
平仄	ひょうそく	つじつま、順序 「一が合う」
琵琶	びわ	
封殺	ふうさつ	
風物詩	ふうぶつし	季節の感じをあらわしているもの。「流し素麺は、夏の一だ」
不織布	ふしょくふ	繊維を織らずに絡み合わせたシート状のものをいう。
布巾	ふきん	
不如意	ふによい	経済的に苦しいこと。思うように事が運ばないこと。
不文律	ふぶんりつ	文章に明記されていない法や規律。慣習法。
伯刺西爾	ブラジル	
無聊	ぶりょう	退屈。「一をかこつ」(不遇な立場におかれた自分を嘆く)
睥睨	へいげい	にらみつけて威圧すること。「あたりを一する」
辺鄙	へんぴ	都会から離れていて不便なこと。
芳醇	ほうじゅん	

朗らか	ほがらか	
木瓜	ぼげ	ばら科の落葉低木。
牡丹	ぼたん	
熱る	ほてる	
輔弼	ほひつ	旧憲法下において、天皇の政治を助けること
鮠	ぼら	
邁進	まいしん	
蒔田	まいた	神奈川県の名
燐寸	マッチ	
塗れる	まみれる	
木乃伊	ミイラ	
壬生	みぶ	京都府の名
御息所	みやすどころ	皇太子妃または親王妃の称などの意
椋鳥	むくどり	
無謀	むぼう	
墨西哥	メキシコ	
鍍金	メッキ	
木綿	もめん	
靄	もや	
八街市	やちまた	千葉県の名
八百万	やおよろず	非常に多くの。無数の。「一の神」
諭旨	ゆし	趣旨や理由をさとし、告げること 例：諭旨免職
浴衣	ゆかた	
諭旨	ゆし	趣旨や理由をさとし、告げること 例：諭旨免職
螺鈿	らでん	漆器や帯などの伝統工芸に用いられる装飾技法のひとつ。
濫觴	らんしょう	物事の始まり。
吝嗇	りんしょく	けち 極度に物惜しみをすること
伶俐	れいり	賢いこと 利口なこと
緑青	ろくしょう	銅の器物の表面にできる緑色のさび。
草鞋	わらじ	
公魚	わかさぎ	
態々	わざわざ	
患う	わずらう	